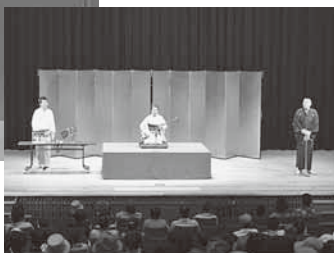




創作落語や演芸 本格的な寄席を市民がたん能「あしべつ寄席」



芦別120周年・市制施行60周年記念事業の「あしべつ寄席」が6月9日、市民会館で開催されました。出演したのは、テレビ、映画などでも活躍している林家正蔵さんから3人の落語家のほか、太神楽曲芸や紙切りといった演芸もあり、本格的な寄席の顔ぶれとなりました。

最初の寄席囃子の実演と解説では、落語家の三遊亭歌奴さんが、寄席の仕組みなどを軽妙な語りで解説。大トリを務めた正蔵さんは、桂三枝（現・六代桂文枝）さんが創作した「読書の時間」を披露して、会場を埋めた市民の皆さんは大きな笑いで本格的な寄席の雰囲気を楽しんでいました。



「野のなななのか」の芦別ロケが順調に行われています

大林宣彦監督による映画「野のなななのか」の撮影が6月4日から市内各所で行われています。

映画は太平洋戦争終結直前に樺太でソ連軍侵攻を経験し、92歳で亡くなった元病院長の男性を軸に、平和について考える物語で、ほぼ全編、芦別市内が舞台です。元病院長の男性役を演じる旭川

市出身の俳優・品川徹さんや村田雄浩さん、常盤貴子さん、左時枝さんらが続々と芦別入り。12日にはカナディアンワールド公園で撮影が行われ、初夏の日差しの下、大林監督の「ヨーイ、スタート」の声が公園内に響きわたりました。撮影は7月10日頃まで行われる予定です。



「チャレンジデー」今年も敗れましたが、健康のためスポーツを



5月29日、「チャレンジデー」が行われました。人口が同じ規模の自治体同士がその日の住民のスポーツ参加率を競うもので、芦別市は昨年に続いて2回目の参加。今年は、福岡県みやこ町との対戦となりましたが、芦別市の参加率は23.2%で、みやこ町の62.0%に

及ばず敗れてしまいました。負けてはしまいましたが参加率が昨年よりも0.7%増え、少こしずつではありますが市民のスポーツ参加の意欲の高まりを期待する結果となりました。（写真は野花南農村公園で行われたラジオ体操に参加した皆さん）



タイの旅行関係メディアが芦別取材しました

6月11日、タイの旅行会社や旅行雑誌、テレビ局関係者合わせて6人が芦別市の観光情報を取材するため訪れました。

これは、国土交通省北海道運輸局が、外国人観光客を北海道へ呼び込むために行っている事業の一つで、韓国、中国のほか、東南アジア諸国にも積極的

にPRしていることによるものです。この日、道の駅で清澤市長が取材に応じ、旭ヶ丘公園、健民センターなど芦別市の主要な観光スポットを説明したほか、芦別の木を素材とした特産品をプレゼント。タイの関係者は、「まだまだ知らない魅力的な場所があり、有意義でした」と話していました。

